

## 問題 No.104 金融政策(2)

次の各問について答えなさい。

問1 コール市場での無担保オーバーナイト物金利に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 準備預金制度の下で、日本銀行は無担保オーバーナイト物金利を制御できる。
- B 日本銀行は無担保オーバーナイト物金利の誘導目標をアナウンスしている。
- C 無担保オーバーナイト物金利は準備預金の機会コストに相当する。
- D 無担保オーバーナイト物金利は超短期金利であるため、長期金利に影響を与えない。

問2 日本における金融政策の手段に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A 公定歩合（基準割引率および基準貸付利率）はコールレートよりも重要視されている。
- B 市場操作は通常、株式市場で株券などを売買する方法である。
- C 日本銀行貸出の目的は、実体的には、通常、金融システムの安定化にある。
- D 日本銀行貸出は短期金融市場の発展に伴い重要性を増した。

## 問題 No.104 【解答及び解説】

(答) : 問1 D 問2 C

《解説》

- 問1 A : 民間金融機関の預金準備高を日本銀行は無担保オーバーナイト物金利を変更させることにより達成している。本肢は正しい。
- B : 無担保オーバーナイト物金利を誘導目標としている。本肢は正しい。
- C : 日銀当座預金が無利息であるため、無担保オーバーナイト物金利は準備預金の機会コストである。準備預金として拘束されるため金利を生むことができない。本肢は正しい。
- D : 無担保オーバーナイト物金利は超短期の金利であるが、短期金利市場の金利に影響を与え、さらに、金利の期間構造を通じて少なからず長期金利にも影響を与える。本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は(D)である。

- 問2 A : 無担保コール・レートが政策金利であり、公定歩合は現在それほど重視されていない。本肢は誤り。
- B : 市場操作は、債券市場で国債の売買取引においてなされる。本肢は誤り。
- C : 本肢は正しい。
- D : 日本銀行貸出は、金融システムの安定性のためにある。本肢は誤り。
- よって、本問の正解肢は(C)である。

## 問題 No.105 金融政策(3)

次の各問について答えなさい。

問1 最近の日本の金融政策に関する次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A ゼロ金利政策とは、貸出金利をできる限りゼロ%に近づけようとする政策であった。
- B 量的緩和政策とは、貸出量を操作目標とし、貸出量を増やして貸し渋りを解消する目的で行われた。
- C 2006年3月に量的緩和政策が解除された。
- D 1997年11月の北海道拓殖銀行の破綻という金融危機に対し、ゼロ金利政策が発動された。

問2 金融政策の波及経路に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 短期金利の上昇は必ず金利の期間構造を通じて長期金利の下落をもたらす。
- B 金融を緩和する場合は、まず、日銀当座預金残高を増やしたりコールレートを引き下げるといった金融政策の運営方針を立てる。
- C インターバンク市場の金利が上がると、裁定取引によりオープン市場の金利も上がる。
- D 長期金利が上昇すると、マネーサプライ(マネーストック)の増加が抑制される。

## 問題 No.105

## 【解答及び解説】

(答) : 問1 C 問2 A

《解説》

問1 A : ゼロ金利政策とは、無担保コールレート(オーバーナイト物)をできるだけゼロ%に近づけようとする政策である。ゼロ金利政策が発動されたのは、1999年(平成11年)2月12日である。その時の目標金利水準は、0.15%前後を目指したものであった。本肢は誤り。

B : 量的緩和政策とは、日銀当座預金残高が操作目標である。本肢は誤り。

C : 2006年(平成18年)3月9日に量的緩和政策を解除し、金利政策に復帰した。本肢は正しい。

D : (A)肢の説明より、本肢は誤り。

よって、本問の正解肢は(C)である。

問2 A : 短期金利の上昇は、必ず金利の期間構造(長期に対するリスク・プレミアムなど)を通じて長期金利の上昇をもたらす。本肢は誤り。

## 問題 No.106

## 準備預金制度

次の各問について答えなさい。

問1 準備預金制度に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 銀行は日本銀行の当座預金口座に公定歩合の利子率で準備預金を積み立てる義務がある。
- B 民間決済システムの最終的な帳尻は日本銀行に開設した当座預金の振替でなされる。
- C 政府資金の受け払いは政府が日本銀行に保有している当座預金を通じてなされる。
- D 日本銀行が準備預金制度を用いて短期金融市場の金利を誘導する頻度は低下してきている。

問2 次の記述のうち、正しいものはどれですか。

- A マネーサプライとは中央銀行が供給する現金のことである。
- B 貨幣乗数（信用乗数）は準備率だけで決まる。
- C 日本の準備預金制度下では前日末の預金額の一定割合を翌日日銀に預金する義務がある。
- D 日本銀行は公開市場操作と日本銀行貸出で信用供与・吸収を行っている。

問3 日本の準備預金制度に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 市中銀行が保有する中央銀行への普通預金が準備預金である。
- B 準備預金制度に加入している市中銀行は、受け入れている預金残高に応じて準備預金を積み立てなければならない。
- C 市中銀行はオンライン処理によって中央銀行に保有する預金を振り替えることで資金決済を行える。
- D 市中銀行は中央銀行に保有する預金を中央銀行券として引き出せる。

## 問題 No.106

## 【解答及び解説】

(答) : 問1 A 問2 D 問3 A

《解説》

問1 A : 金融機関が日本銀行に開設している「当座預金口座」は無利子である。本肢は誤り。(注)政策的に利子を付ける場合もある。

問2 A : マネーサプライとは、民間の非金融部門が保有すると「現金通貨」と「預金通貨」の合計である。本肢は誤り。

B : 貨幣乗数(信用乗数)は、現金預金比率(C/D)と預金準備率(R/D)に依存する。本肢は誤り。

$$\text{貨幣乗数} = \frac{C/D + 1}{C/D + R/D}$$

C : 日本の準備預金制度は同時・後積み混合方式に基づいている。本肢は誤り。

D : 日本銀行の金融政策は、公開市場操作と金融機関に対する日銀貸出による資金供給と吸収を行っている。本肢は正しい。

よって、本問の正解肢は(D)である。

問3 A : 市中銀行が保有する中央銀行への無利子の当座預金が準備預金である。本肢は誤り。

B : 市中銀行は民間の経済主体から預かった預金残高に応じて準備預金を積み立てなければならない。本肢は正しい。

C : 市中銀行はオンライン処理により中央銀行への預金をもって資金決済ができる。本肢は正しい。

D : 市中銀行は中央銀行へ預けている預金を中央銀行券(日銀券)として引き出すことができる。本肢は正しい。

よって、本問の正解肢は(A)である。